

山梨県公立高等学校入学者選抜制度
改善に係る報告書

平成26年1月

山梨県教育委員会

目次

報告にあたって・・・・・・・・・・・・・・・・	1
Ⅰ 審議会答申の要旨・・・・・・・・・・	2
Ⅱ 入学者選抜制度中高連絡協議会の設置・・・・・・・・	4
Ⅲ 入学者選抜制度中高連絡協議会及び入学者選抜方法内検討委員会 における検討状況	
(1) 調査書の内容とその取扱い・・・・・・・・	5
(2) 中学校長による証明書の提出・・・・・・・・	5
(3) 特色適性検査の導入・・・・・・・・	6
(4) 入試日程の改善・・・・・・・・	7
(5) 選抜方法（募集率等）の高校裁量の自由度を増すこと・・・	7
Ⅳ 改善の内容・・・・・・・・	8
《参考資料》	
1 学習活動及び生活状況に関する所見・・・・・・・・	10
2 特色適性検査問題例及び解答例・・・・・・・・	11
3 平成25年度入学者選抜制度中高連絡協議会委員名簿・・・	32
4 山梨県高等学校入学者選抜方法内検討委員会設置要綱・・・	33
5 平成25年度入学者選抜方法内検討委員会委員名簿・・・	34
6 協議経過・・・・・・・・	35
7 入学者選抜制度改善の概要・・・・・・・・	36

報告にあたって

平成19年度に導入された現行の公立高等学校入学者選抜制度は、既に8年目を迎え、制度が定着する一方で、課題等も顕在化してきている。

そこで、「公立高等学校入学者選抜制度」の検証について、平成23年8月に山梨県高等学校審議会に諮問し、翌平成24年12月に出された答申を踏まえ、今日まで高等学校入学者選抜の改善策を検討してきた。答申は、全県一学区制、前期募集及び後期募集を継続とした上で、前期募集には新たな課題があるとし、その対応への方向性を示すものであった。課題として挙げられた事項は、①前期募集選抜基準の不透明感、②部活動や校外活動の実績のみで進学できるといった、一部の生徒や保護者の意識、③前期内定者の学力不足の懸念、④前期内定後、後期入試までの間における、中学校での指導上の困難さ、等であった。また、答申は、これらの課題に対して、中高で連携して検討を重ねていくことが望まれるとした。

この答申を受け、平成25年4月に、新たに県教育委員会内に「山梨県高等学校入学者選抜制度中高連絡協議会」を設置し、①調査書の内容とその取扱い、②中学校長による証明書の提出、③特色適性検査の導入、④入試日程の改善、⑤選抜方法（募集率等）の高校の自由度を増すことを検討項目として、具体的な対応策について協議を行った。

この報告書は、入学者選抜制度中高連絡協議会の報告を踏まえ、高等学校入学者選抜制度の改善策について、山梨県入学者選抜方法庁内検討委員会において決定した内容を取りまとめたものである。

I 審議会答申の要旨

平成24年12月に提出された公立高等学校入学者選抜制度の検証についての答申は、生徒の特性や進路希望に応じた主体的な学校選択の自由を保証する観点から、全県一学区制と現行の公立高等学校入学者選抜制度の中の前期募集を含む枠組みを継続するという方向を示すとともに、新たに指摘された課題への対応を示している。

答申は、全県一学区制については、「入れる学校」から「行きたい学校」へと生徒の主体的な学校選択が広がったことを評価して、これを継続することとしている。

後期募集についても、現行の状況についての問題点を指摘する意見はなく、継続していくとした。また、自己推薦制の前期募集は、「受検機会の複数化」、「複数の評価尺度による選抜」、「特色ある学校づくりの推進」を具現化するものとしてはじまり、全ての生徒が希望する高校にチャレンジできる機会が保証されている。選抜方法は面接や作文、特技・個性表現など多様なものとなり、それぞれ的高校が出願条件を示すことで、生徒たちは自分にあった高校を選択しやすくなっている。このようなシステムが一定の評価を受け、前期募集も継続することとなった。しかしながら、新たな課題が指摘され、その課題及び課題への対応の方向性が次のとおり示されている。

- (1) 調査書の内容とその取扱い
入学者選抜制度を単なる合否決定のシステムとしてだけでなく、中等教育における中高の接続の中で、生徒の個性を伸長するという観点から考えることは大切である。また、高校入試において義務教育段階で身に付けるべき基礎的・基本的な学力を評価することは必要である。このため、中高の接続時に生徒理解をより一層深めるよう、受検生を多面的に評価するシステムを構築するなど、調査書の内容や取扱いも含め、検討していくことを期待する。

- (2) 中学校長による証明書
中学校での部活動や校外活動の実績のみで希望する高校に進学できるような意識を一部の生徒や保護者が持っていることへの対応及び学力の保証への対応から、従前の校長推薦のようなものを何らかの形で導入できないか。このことに対応するために、具体的には、いわゆる推薦条件Bにおいて、中学校長による証明書を提出書類に加えることが望ましい。

(3) 特色適性検査の導入

現在行われている面接の中で学力を問うこと（いわゆる口頭試問）は行わないで、特色ある学校づくり推進の観点から、従来の「作文」に替えて後期募集の「学力検査」とは違う、それぞれの高等学校が求める適性を問う検査を各高等学校の裁量で導入することが期待される。この「特色適性検査」は、新学習指導要領が示す思考力・判断力・表現力を含む、各高等学校の特色への適性を問う検査とする。

(4) 入試日程の改善

新学習指導要領の全面实施を受けて、義務教育段階での基礎・基本を身に付ける学習活動を保証する必要がある。このため、「学びのサーフライン」を維持しながらも、中学校での学習活動を保証する観点から全体的な日程を遅らせる方向で早急に議論を行うべきである。また、再募集の日程を変更することが重要であり、「学びのサーフライン」という観点から考えることが必要である。

(5) 選抜方法（募集率等）の高校裁量の自由度を増すこと

特色ある学校づくりは特に普通科高校では難しいという指摘もあったが、上述した「特色適性検査」の導入及びその内容、募集率などの検討も含めて、前期募集の存続を前提とした上で、選抜に高校裁量の自由度を増すことにより、特色ある学校づくりの推進が期待できる。

答申は、これらの課題を具体的に検討するため、入学選抜制度について中高で話し合う場

（仮称「山梨県高等学校入学選抜制度中高連絡協議会」とする）を設置することを求めた。

Ⅱ 入学者選抜制度中高連絡協議会の設置

答申に基づき次のとおり、平成25年4月25日に入学者選抜制度中高連絡協議会を設置した。

(1) 目的

公立高等学校入学者選抜制度は、中等教育における中高の接続の中で、生徒の個性を伸長し、社会の一員として生きていく力を育成するための要であるという観点から、制度の継続的かつ検証と改善をはかる。

(2) 組織

・協議会は、会長、副会長及び委員をもって構成する。

・会長及び副会長は中高の教頭会より選出された委員から各1名を充てる。

・委員の構成

高校教育課・・・事務局主幹。高校教育指導監。課長補佐。入試担当指導主事2名
新しい学校づくり推進室：高校改革担当3名。特別支援担当1名

教育センター・・・情報担当1名

義務教育課・・・義務教育指導監。中学校担当3名

県立高等学校・・・教頭会から2名 教務主任会から4名

公立中学校・・・教頭会から2名 入試担当教諭から4名 (計26名)

※必要に応じて作業部会をおくことが出来る。

(3) 所掌事務

・高等学校入学者選抜制度についての調査・分析を行い、改善を要する事項及びその具体的改善方策について検討する。

(4) 運営

・協議会は、会長が招集し議長となる。

・協議会の庶務は、新しい学校づくり推進室が担当する。

(5) 協議会の位置付け

・協議会で審議した案件は入学者選抜方法内検討委員会に報告し検討する。

・入学者選抜方法内検討委員会での検討、調査等の必要があるとされた入試制度に係る事項については協議会で扱うこととする。

Ⅲ 入学者選抜制度中高連絡協議会及び入学者選抜方法庁内検討委員会における検討状況

県教育委員会では答申の要旨を踏まえ、次の5つについて具現化する方向で「入学者選抜制度中高連絡協議会」及び「入学者選抜方法庁内検討委員会」で検討し意見集約を行った。

1 調査書の内容とその取扱い

答申には、中高の接続時に生徒理解をより一層深めるよう、受検生を多面的に評価するシステムを構築するなど、調査書の内容や取扱いも含め検討していくことが期待されると述べられているが、「入学者選抜制度中高連絡協議会」及び「入学者選抜方法庁内検討委員会」は、調査書の内容及びその取扱いについて、後述する「中学校長の証明書の提出」と関連させて協議を行った。

まず、調査書の内容について「入学者選抜制度中高連絡協議会」は、生徒の中学校時での学習生活状況等を把握するために「中学校長の証明書」を導入するというよりはむしろ調査書に観点別評価を記載事項として取り入れ、生徒を理解すべきであるとの意見が出された。その取り扱いについては、調査書の選抜資料の比重に関して下限を設定するか否かで議論をしたが、各高校の裁量を重視することが重要で、特色ある学校づくりの推進という意味では現状維持が良いとした。

「入学者選抜方法庁内検討委員会」では、生徒を多面的にとらえ理解を一層深められるよう、調査書に観点別評価を取り入れる意見も一部出たが、評定には観点別評価が含まれているので、現行どおりの内容で良いとの意見が多数であった。調査書の取扱いに関しては、各高校に裁量があり、調査書の選抜資料比重及び採点基準を定めているが、現段階では各高校において問題がないので、調査書の選抜資料比重の下限は設定せず、従来どおり、各高校の自由裁量とする意見が多かった。

2 中学校長による証明書の提出

答申には、いわゆる推薦条件Bにおいて、「中学校長による証明書」を提出書類に加えることが望ましいと述べられている。このことを踏まえながら、上述の「調査書の内容とその取り扱い」と関連させて検討を行った。

「入学者選抜制度中高連絡協議会」では、「中学校長の証明書」を導入するというよりはむしろ調査書に観点別評価を取り入れることで受検生を多面的にとらえることができるのではないかと意見が出された。

「入学者選抜方法庁内検討委員会」では、答申を尊重すべきとした上で、「中学校長による証明書」を導入することとし、出願者の提出書類に加えた方が良いとする意見が多数をしめた。また、具体的に検討していく中で、「中学校長による証明書」は、「学習活動及び生活状況に関する所見」

とし、基本的事項は県教育委員会が定め入学者選抜実施要項に明記すること、具体的な基準は各中学校裁量とすることでままとまった。さらに、選抜資料比重の中に項目として設け、その証明書の比重は各高校の裁量で定め、様式は県教育委員会が作成することで意見を集約した。

3 特色適性検査の導入


「特色適性検査」については、答申に「特色ある学校づくり推進の観点から、従来の作文に替えて後期募集の学力検査とは違う、それぞれの高等学校が求める適性を問う検査を各高等学校の裁量で導入する。」とあることから、「入学者選抜制度中高連絡協議会」では、「特色適性検査」の学科ごとの問題例を委員が実際に作成し、それについて審議する機会とした。さらに、特色適性検査作業部会を設置し、解答例等を作成した。審議を重ねる中で、問題例は難易度が高く、各高校で作成する際には、学校・学科の特色に応じて創意工夫して作成する必要があることが確認された。

「入学者選抜方法市内検討委員会」においても問題例が重厚すぎるとの発言があり、各高校の特色に応じて出題する必要性を確認した。また、面接の中で学力を問うこと（いわゆる口頭試問）は行わないこととし、「特色適性検査」を次のとおりとした。

「特色適性検査」とは、

- ① 学校の特色を踏まえて、志願者に適性があるかどうかを見る検査である。
- ② 後期募集で行われている学力検査のようなものではなく、従来の作文に替わるもので、志願者の思考力・判断力・表現力を測る検査である。
- ③ 『学習指導要領 総則』には、「(前略) 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に修得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をばぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。」とあるが、各高校はこのことを踏まえ、創意工夫して作成する必要がある。

- ① 自己表現力 (意見・理由・根拠の提示)
- ② 課題解決能力
- ③ 知識等の活用能力



学校・学科の特色

4 入試日程の改善

答申は、「学びのサーフラインネット」を維持しながらも、中学校の学習活動を保証する観点から全体的な入試日程を遅らせる方向で議論をするよう求めている。このことを踏まえ協議を進めた。

「入学者選抜制度中高連絡協議会」では、中学校の学習活動を確保できるよう、入試日程全体を遅らせて、前期募集の検査及び内定は2月中に行い、再募集は全日制・定時制で別の日に実施するとの意見が大半であった。しかし、一部ではあるが、定時制の再募集日程を現状よりも前にしてほしいとの意見も出た。

「入学者選抜方法庁内検討委員会」においては、前期募集の検査及び内定は中学校の学習活動を保証する観点から2月中に行うことで意見が集約できた。再募集については、全日制・定時制で同じ日に実施することにより入試日程全体を遅らせることができるとの意見も出たが、最終的には、「学びのサーフラインネット」を維持する観点から、全日制・定時制で別の日に実施することが良いとする意見が大勢をしめた。

5 選抜方法（募集率等）の高校裁量の自由度を増すこと

選抜方法の高校裁量の自由度を増すことについては、募集率について検討を進めていった。

「入学者選抜制度中高連絡協議会」では、総合学科及び職業に関する学科の募集人員は、募集定員の50%以内とし、普通科及び専門教育学科はそれよりも下回るよう別途定めるべきであるという意見が出た。また、受検機会の複数化は、やはり望ましい姿であり、ある学科の0%は避けた方が良いのではないかとこの意見が多数をしめた。

「入学者選抜方法庁内検討委員会」では、その学校が前期募集を実施している限り、学科としての特色づくりを推進させるためには募集定員が0%の学科もあっても良いのではないかとこの意見が出た。結局、前期募集は受検機会の複数化を前提にしている以上、全ての高校・学科において実施することとし、その人員は、普通科及び専門教育学科が募集定員の40%以内、総合学科及び職業に関する学科は募集定員の50%以内とし、従来の出願の条件A・B・Cの全てを0%にすることはできない（出願の条件を1つにすることは可能である）とすることで意見がまとまった。

IV 改善の内容

1 調査書の内容とその取扱い

- 生徒を多面的にとらえ理解を一層深められるよう、調査書に観点別評価を取り入れる意見も出たが、評価には観点別評価が含まれているので、現行どおりの内容とする。
- 前期募集では調査書の扱いに関しては、各高校に裁量があり、調査書の選抜資料比重及び採点基準を定めている。現段階では各高校において問題がないので、調査書の選抜資料比重の下限は設定せず、従来どおり、各高校の自由裁量とする。

2 中学校長による証明書の提出

- 中学校長による証明書は、推薦条件Bの出願者だけでなく出願者全員を対象とし、提出書類の1つとする。
- 中学校長による証明書の名称は、「学習活動及び生活状況に関する所見」とする。
- 様式は参考資料1のとおりとし、開示については調査書同様の扱いとする。
- 各高校の選抜資料比重の中に項目として設け、その比重は各高校の裁量で定める。
- 基本的事項は次のとおりとし、入学者選抜実施要項に明記し、具体的な基準は各中学校裁量とする。

<p>基本的事項： 中学校長は、「学習活動及び生活状況に関する所見」を志願先高等学校長に提出する。「学習活動及び生活状況に関する所見」は、志願者の学習活動及び生活状況について中学校長が3つの基準、A（十分満足できる）、B（満足できる）、C（努力を要する）を用いて所見を記したものである。</p> <p>授業に向かう姿勢、学校行事等への取り組み、学校のきまり等の遵守の3つの項目全てにおいて、特に優れている生徒はA（十分満足できる）、3つの項目において、努力を要する事項が一つでもある生徒はC（努力を要する）、それ以外の生徒はB（満足できる）とする。</p>
--

3 特色適性検査の導入

- 「特色適性検査」は、学校及び学科の特色を踏まえて、志願者に適性があるかどうかを見る検査とする。後期募集で行われている学力検査のようなものではなく、従来の作文に替わるものであり、志願者の思考力・判断力・表現力を測る検査である。
- 各高等学校の裁量で導入する。
- 面接の中で学力を問うこと（いわゆる口頭試問）は行わないこととする。

4 入試日程の改善

- 前期募集の検査及び内定は、中学校の学習活動を保証するため、2月中旬に行う。
- 再募集は、「学びのセーフティネット」を維持する観点から、全日制・定時制で別の日に実施する。

5 選抜方法(募集率等)の高校裁量の自由度を増すこと

- 前期募集は、全ての高校・学科において実施することとし、その人員は次のとおりとする。

普通 科 : 募集定員の40%以内
専門教育学科 : 募集定員の40%以内
総合 学 科 : 募集定員の50%以内
職業に関する学科 : 募集定員の50%以内

- ※ 従来の出願の条件A・B・Cの全てを0%にすることはできない(出願の条件を1つにすることは可能である)。

<前期募集人員の現状>

普通 科 : 定員の10%から30%の範囲
専門教育学科 : 定員の20%から40%の範囲
総合 学 科 : 定員の20%から40%の範囲
職業に関する学科 : 定員の30%から50%の範囲

6 導入時期

- 平成27年度入学者選抜より導入する。

学習活動及び生活状況に関する所見

平成 年 月 日

高等学校長 殿

学 校 名

校長氏名

職 印

志願者氏名

生 年 月 日 平成 年 月 日 生

志願学科名

志願者の学習活動及び生活状況については次のとおりです。

- A 十分満足できる
- B 満足できる
- C 努力を要する

<努力を要する事項>

授業に向かう姿勢

学校行事等への取り組み

学校のきまり等の遵守

前期募集特色適性検査

○ 問題 例

○ 解答 例

【普通科問題例】

次の表は平成24年度 全国学力・学習状況調査の理科に関する「児童生徒質問紙」の調査結果の抜粋です。校種や教科の違いを考慮しながら、下の設問に答えなさい。

① 理科の勉強は好き	・小学校：約 82% ・中学校：約 62%
② 理科の勉強は大切だと思う	・小学校：約 86% (国語：約 93% 算数：約 93%) ・中学校：約 69% (国語：約 90% 数学：約 82%)
③ 理科の授業の内容はよく分かる	・小学校：約 86% (国語：約 83% 算数：約 79%) ・中学校：約 65% (国語：約 72% 数学：約 66%)
④ 理科の授業で学習したことは、将来、役に立つと思う	・小学校：約 73% (国語：約 89% 算数：約 90%) ・中学校：約 53% (国語：約 83% 数学：約 71%)
⑤ 将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う	・小学校：約 29% ・中学校：約 24%

※ 中学3年生、小学校6年生対象。表中の数値は肯定的回答（「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」）の割合を示している。

(1) 上記調査結果から読み取れる内容、並びにそのようになった理由を自分の経験に基づいて推測し、300字以内で書いてください。

(2) あなたが上記調査項目の「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う」という立場に立った場合、本校の3年間でどのように過ごしていきますか。(1)の解答と関連させながら300字以内で書いてください。

【総合学科問題例】

総合学科は「将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習を重視すること」が特色の1つです。さて、下に示すのは、本校に入学したばかりの3名の生徒に自分の特徴をあげてもらったものです。これを資料として、次の設問に答えなさい。

生徒A	生徒B	生徒C
<ul style="list-style-type: none">・運動神経がいい・正義感が強い・自分の意見をはっきり言う・礼儀正しい・パソコンが苦手	<ul style="list-style-type: none">・誰にでも優しい・掃除をしっかりとる・いつも明るく元気・本を読むのが好き・寝坊してしまうことがある	<ul style="list-style-type: none">・器用である・数学が得意・恥ずかしがり屋・みんなで何かをすることが苦手・動物が好き

設問① あなたがこの3名の中から、友人として1人を選び、将来の具体的な職業についてアポイントを150字程度で試みてください。その際、その人物のどの特徴をいかにすることができるかについて必ずおれてください。

設問② 設問①で選んだ人物がその将来の職業に就くにあたり、さらに必要な能力や技能を高めるため、また意志を強くするために、「こんな本を読むといい」、または「こんな人物の生き方を参考にするといい」というものを1つあげ、理由も入れて50字程度で説明してください。

設問③ あなた自身が現在考えている将来の職業について、次のことにおれながら400字程度で書いてください。

- ・その職業を考えた理由（自分のどういう特徴をいかせるかを入れる）
- ・その目標実現のために選ぶ本校の系列（1つ選ぶ理由も書く）
系列：自然科学・人文社会 福祉健康 情報ビジネス
- ・その目標実現のために在学中にしてみたいこと（2つ選ぶ理由も書く）

参考：職場体験 学校見学 討論会 講演会参加

奉仕活動 職業研究 部活活動

【工業科問題例】

あなたは、小学生の弟の誕生日に「動くおもちゃ」を作ってプレゼントすることにしました。あなたはどのようなおもちゃを作りますか。次の条件で答えなさい。

〈条件〉

- ① おもちゃは、2～3つの動きがあること。
- ② それぞれの動きについて、動力になるものや部品などを示して、どのような動きをするのかを説明すること。
- ③ はじめにおもちゃ全体の説明をし、その後2～3つの動きについて説明をすること。
- ④ 50分間、600字以内で書くこと。

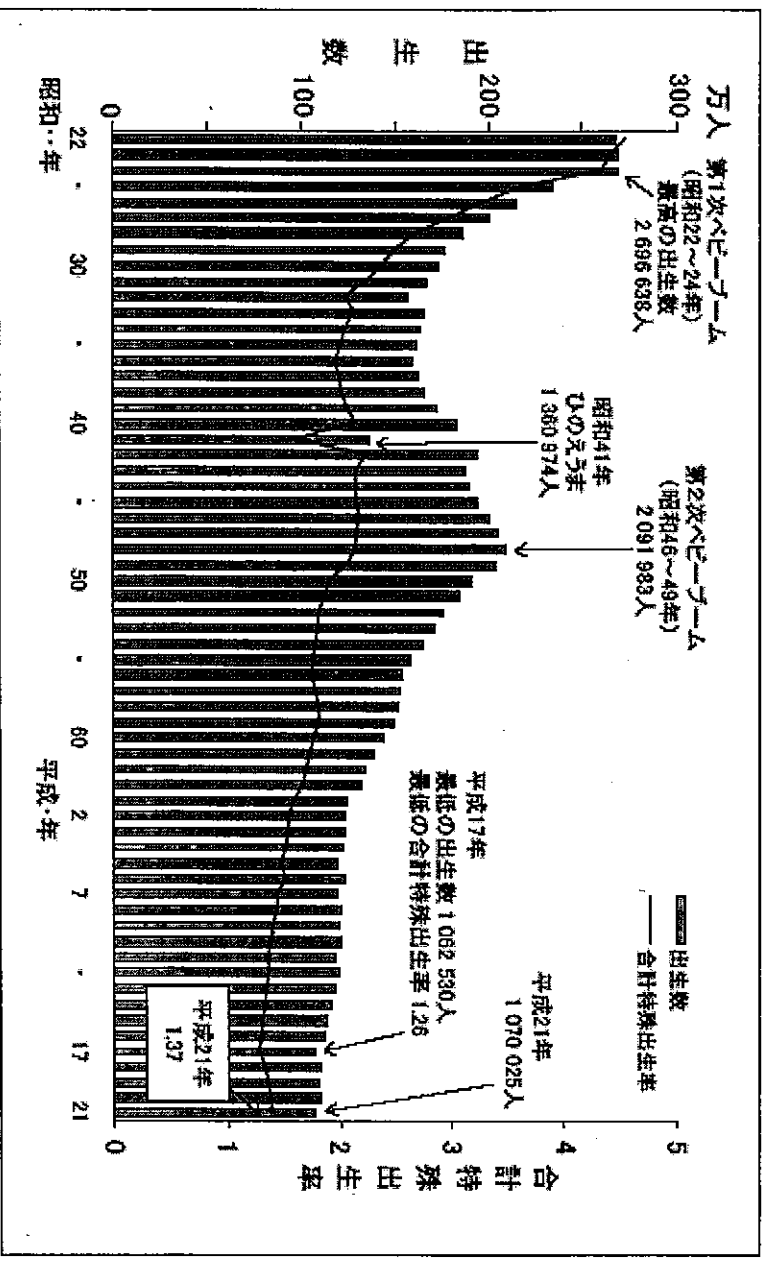
【商業科問題例】

下のグラフ (図1) は、昭和22年から実施されている人口動態調査 (厚生労働省) である。〈表1〉は、平均初婚年齢の年次推移表であり、〈表2〉は、雇い就業率の推移を表わす。また、〈資料1〉は、「毎日が充実していますか?」のインタビューに対して、4人が答えたものをまとめたものである。このことについて下の問いに答えなさい。

- (1) このグラフ (図1) の合計特殊出生率の推移を説明し、この傾向が今後も続いた場合、私たちの生活や産業 (商業) にどのような影響をもたらすか。200字以内で書きなさい。
- (2) 〈表1〉、〈表2〉及び〈資料1〉のインタビュー内容を参考にして、このグラフ (図1) に関する下の質問①②について、あなたの考えを300字以内で書きなさい。

- ① 第2次ベビーブーム以降、出生数はなぜ減少をたどったか。
- ② この傾向 (少子化) を改善させるには、あなたは企業に何を求めるか。

(図1) 出生数及び合計特殊出生率[*]の年次推移



出典：平成23年人口動態統計月報年計 (概数)

注：[*] 合計特殊出生率とは、15歳から49歳の女性の年齢別出生率を合計した指標。一人の女性が平均して一生の間に何人の子供を産むかを表す。

＜表1＞ 平均初婚年齢[*]の年次推移 厚生労働省『人口動態統計』により作成

	男	女
昭和50	27.0	24.7
55	27.8	25.2
60	28.2	25.5
平成 2	28.4	25.9
7	28.5	26.3
12	28.8	27.0
17	29.8	28.0
22	30.5	28.8
23	30.7	29.0

注：[*]平均初婚年齢：初めて結婚する人の平均年齢

＜表2＞ 雇用就業率[*]の推移 (%) 平成19年度『国民生活白書』により作成

年次	男	女	総数
1955	41.5	15.8	28.2
1960	49.7	20.4	34.5
1965	53.5	23.0	37.8
1970	57.4	26.7	41.6
1975	60.3	26.8	43.1
1980	60.2	29.4	44.4
1985	59.9	31.7	45.4
1990	61.3	35.4	48.0
1995	62.7	37.8	49.9
2000	61.3	38.4	49.5
2005	59.3	39.2	48.9
2006	60.0	40.0	49.7

注) [*]雇用就業率：15歳以上の人口に占める雇業者の割合

＜雇用就業率＝(雇業者数÷15歳人口)×100＞

雇業者：会社等に雇われている人

<資料1>

質問：毎日が充実していますか？

女性A(46歳)

充実はしていますね。4月から長男が東京の私立大学に行くようになりました。授業料と生活費で彼には毎月15万円は送金しています。長女も高校2年生で、卒業後は美容専門学校へ行くことを考えているようです。教育費がかさむので私もまた働くようになりました。

女性B(35歳)

仕事を楽しんで、毎日が充実しています。昨日は夜10時頃まで残業していました。会社の待遇も良く、来年、マンションを購入する予定です。結婚は今のところ考えられないですね。一人の方がいいと思います。

男性C(30歳)

10年間フリーターをしています。毎日の生活が充実しているのかどうかは今のところ疑問ですね。一人で生活するだけで精一杯なので。でも、昨年、資格をとったので、来年は何とか正規採用になりそうです。努力した甲斐がありました。結婚はもう少ししてからですね。

男性D(43歳)

私の会社もグローバル化が進み、生き残りをかけて合理化が図られました。その結果、ほぼ全員が長時間労働を余儀なくされています。毎日帰るのは夜11時頃です。妻も働いているので、早く帰って、子育てや家事の手伝いをしたいんですが難しいですね。二人目の子どもは考えていません。

【農業科問題例】

表A 山梨県における鳥獣の農作物被害状況

	H19	H20	H21	H22	H23	
獣害	被害面積 (h a)	1 69	1 42	1 38	1 27	1 24
	被害量 (t)	8 00	7 18	7 46	7 48	7 75
	被害金額 (百万円)	1 55	1 54	1 51	1 56	1 59
鳥害	被害面積 (h a)	4 1	3 9	3 4	2 7	2 5
	被害量 (t)	1 24	1 03	1 07	9 8	9 8
	被害金額 (百万円)	3 5	3 7	3 8	3 4	3 5
	被害面積 (h a)	2 10	1 82	1 72	1 54	1 50
合計	被害量 (t)	9 24	8 21	8 53	8 46	8 74
	被害金額 (百万円)	1 90	1 90	1 89	1 90	1 95

《山梨県農政資料より》

図B 食物連鎖



《広島工業大学環境学部環境情報学科資料より》

問い

表Aは、山梨県における鳥獣の農作物被害状況を表わしています。この表Aから読み取れること、並びに、図Bに基づき、鳥獣被害が発生している理由について述べて下さい。さらに、鳥獣被害を少なくするには、どのようにすれば良いでしょう。あなたの考えを600字以内でまとめてください。

【理数科問題例】

下の表は、太陽の周りを回っている惑星について調べたものです。この表を利用して以下の設問に答えてください。

天体の名前	水星	金星	地球	火星	木星	土星
表面の平均温度(°C)	約170°C	約460°C	約15°C	約-50°C	-145°C	約-195°C
大気の主成分	(ほとんどない)	二酸化炭素	窒素・酸素	二酸化炭素	水素・ヘリウム	水素・ヘリウム
密度 (g/cm ³)	5.43	5.24	5.52	3.93	1.33	0.69
太陽からの距離 (太陽地球間=1)	0.39	0.72	1 (1.5億km)	1.52	5.20	9.55
公転の周期(年)	0.24	0.62	1	1.88	11.86	29.46
自転周期(日)	58.65	243.02	1	1.03	0.41	0.44
直径(地球=1)	0.38	0.95	1 (12,756km)	0.53	11.21	9.45
質量(地球=1)	0.06	0.82	1	0.11	317.83	95.16

《新しい科学3年(東京書籍)により作成》

- (1) 太陽からの距離が金星よりも近い水星の表面の平均温度が、金星の表面の平均温度より低いのはなぜだと考えますか。その理由を説明して下さい。
- (2) 上の表の天体は、ある天体とある天体を境に、特徴が大きく異なる2つのグループに分類することができます。ある天体とある天体とはどれとどれかを答え、2つのグループの特徴を表に基づいて説明して下さい。
- (3) 「表の中の惑星のうち、地球からの距離がもっとも遠くなるのはどの惑星で、どのようなときか」という質問を小学校の6年生から受けました。図や文章を使いながら、そのときの地球との距離がどれくらいかを小学生にわかるように説明してください。ただし、地球と太陽との距離を150mとし、各惑星の公転軌道は太陽を中心とする円とします。
- (4) 今のところ太陽系の中の地球だけに生命が存在すると言われています。それはなぜだとあなたは考えますか。200字以内でまとめてください。

普通科解答例

小学校時には八割以上の者が理科が好きで、	その重要性を認識し、よく理解できると答え	ている。また、理科の学習は、約七割が将来	役立つと回答している。一方、中学になると	理科への肯定的な回答は六割程度へと下がり、	国語・数学と比べても、その低下率は著しい。	将来、理科関係の職業に就くことを希望する	割合は、小学校時と比べると5%の低下とな	る。これは、理科の授業に必要不可欠な実体	験が中学校になると少なくなるからだと考え	る。また、科学の意義や重要性、面白さが伝	わっていないことも理由として考えられる。	科学が世の中を良くするためにとのように使	われているかが分かる授業、実体験重視のワ	クワクスするような授業が望まれる。												296 字
----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-----------------------	-----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----------

私がこの高校で力を入れたいことの一つは
 進学するための勉強である。私は建築家にな
 りたいと考えている。小学生のとき、父が黒
 部ダムや瀬戸大橋に連れて行ってくれた。こ
 の巨大な建造物には圧倒され、建設に関わつ
 た人々に尊敬の気持ちを抱いた。人間の考え
 る力には底知れぬものがあると感じた。高校
 の三年間では勉強に専念して、有名な建築物
 を見て回り、今の理科教育で欠けている実体
 験を自ら試み、学びの動機付けにしたい。
 もう一つ力を入れたいのは、ボランティア
 活動である。建物や街は人間が暮らし過ぎず
 場所である。その場所をつくるには人間の心
 を知る必要がある。多くの人とつきあい、人
 間や社会について理解を深めていきたい。

299 字

総合学科 解答例

Aさんは、礼儀正しくて正義感も強く、自分の考えをはっきり言うことができるので、政治家に向いていると思います。政治家は国民の気持ちをくみ取って、国のために良い政策を考え、実行しなければなりません。その意味で、礼をわきまえて、自分の意見をはっきり言うことは政治家に必要な資質だと考えます。これらの資質がAさんにはあります。

159字

司馬遼太郎の『龍馬がいく』です。日本を変えようとすする彼の強い意志は、今の日本の指導者に必要とされるものです。

54字

工業科解答例

弟は工事現場で作業をする建設機械が好き
 ため、クレーン車を作ることになりました。
 そのクレーン車は、アームの上部まで荷物を
 引き上げることができ、荷物ごとアーム台を
 回転させて別の場所へ荷物を降ろすことがで
 きます。また、電池とモーターを使って自走
 することができます。
 はじめに、荷物を上げ下げする動きについ
 て説明します。荷物の上げ下げは、人の手で
 行います。アームはアーム台と約45度の角度
 で固定され、アームの上部に滑車、下部には
 糸の巻き取り軸を付けます。巻き取り軸は
 手で回せるハンドルを付けて固定します。引
 き上げる糸は、たこ糸を使います。たこ糸の
 一端は巻き取り軸に接着され、他端は上部滑
 車を通して下に垂らし、そこに荷物を引っか
 けるフックを付けます。巻き取り軸に付けた
 ハンドルを回すと、たこ糸が巻き取られ、荷
 物を持ち上げることができ、巻き戻すする
 ことで下げることができます。

インタビューからは、女性が社会進出を	していること、共稼ぎのためにより子供数を制限	する夫婦がいること、結婚を遅らせている男	性がいること、教育費がかさみ再就職する主	婦がいることなどが分かる。表からは女性が	働くようになり、平均初婚年齢が男女ともに	上昇していることが分かる。未婚率の上昇や	晩婚化、育児の負担が重いこと、そして教育	費の高騰などが原因で日本の出生数は減少を	たどってきたと考える。企業には安心して子	育てができる条件や環境を備えることを求め	たい。会社をやめても女性が復職でき、男性	も家事に従事できるよう条件がそろった企	業が良い。そして、何よりも若者を正式な社	員として採用してくれる企業が望まれる。

298 字

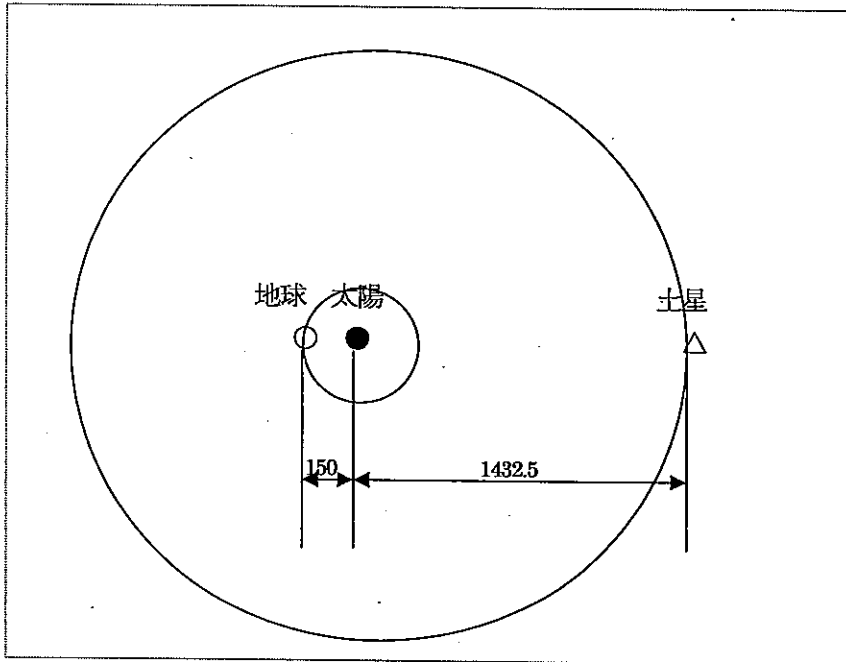
農業科解答例

表	A	から	は	、	平成	19	年	から	平成	23	年	に	か	け
て	、	鳥	獣	に	よ	る	農	作	物	の	被	害	面	積
一	ル	減	少	し	、	被	害	量	は	50	ト	ン	減	少
と	が	わ	か	る	。	一	方	、	そ	の	被	害	金	額
を	通	じ	て	、	お	よ	そ	1	億	9	千	万	円	で
ん	ど	変	化	し	て	い	な	い	こ	と	が	わ	か	る
食	物	連	鎖	を	表	わ	す	図	B	と	合	わ	せ	て
る	と	、	森	の	中	の	食	物	連	鎖	が	崩	壊	し
森	の	中	の	鳥	獣	が	里	に	出	て	く	く	る	よ
言	え	る	。	人	間	に	よ	る	環	境	破	壊	等	で
養	分	が	な	く	な	り	、	森	が	豊	か	に	育	た
森	の	中	の	食	べ	物	が	な	く	な	り	、	餌	を
出	る	の	で	あ	る	。	ま	た	、	森	を	守	っ	て
減	少	し	て	お	り	、	森	が	荒	れ	る	こ	と	の
と	さ	れ	る	。										
以	上	の	こ	と	か	ら	、	鳥	獣	被	害	を	少	な
め	に	は	、	森	を	豊	か	に	育	て	、	鳥	獣	を
と	が	必	要	だ	と	考	え	る	。	私	た	ち	は	ま
題	へ	の	関	心	を	高	め	、	身	近	に	起	こ	っ
事	を	知	る	こ	と	か	ら	始	め	る	必	要	が	あ

何	よ	り	も	自	然	環	境	を	取	り	展	す	こ	と	が	で	き	る	よ
う	、	森	の	手	入	れ	を	行	い	、	鳥	獸	が	住	み	や	す	い	環
境	に	整	え	て	い	く	必	要	が	あ	る	。	こ	の	た	め	に	は	、
や	は	り	、	林	業	や	農	業	を	魅	力	あ	る	産	業	に	し	て	、
若	者	を	中	心	に	林	業	や	農	業	に	携	わ	る	人	を	増	や	し
て	い	く	こ	と	が	解	決	策	の	一	つ	に	な	る	と	考	え	る	。
「	食	べ	る	・	食	べ	ら	れ	る	」	と	い	う	自	然	界	の	生	態
系	、	森	の	重	要	性	、	そ	し	て	森	の	魅	力	に	つ	い	て	林
業	や	農	業	に	携	わ	っ	て	い	る	人	々	に	話	し	て	も	ら	い
関	心	を	深	め	て	い	き	た	い	。									
																			591字

理数科解答例

- (1) 金星は、大気の主成分が二酸化炭素であるため、温室効果により、その表面の平均温度は約 460°C と高温に保たれている。一方、水星は、太陽に最も近い惑星だが、大気がほとんどなく、熱を保つことができないと考えられる。以上の点から、水星の表面温度の方が金星の表面温度よりも低いと考えられる。
- (2) ある天体とは火星と木星である。表の中の水星・金星・地球・火星は地球型惑星、木星・土星は木星型惑星とされている。太陽に近い地球型惑星は、大きさや質量が比較的小さいが、密度が大きく、主に岩石でできている。これに対し、太陽から遠い木星型惑星は、大きさや質量が大きく、密度が小さい。特に木星と土星は多量のガスでできている。
- (3) 太陽の周りには、水星、金星、地球、火星、木星、土星、天王星、海王星の順で8つの惑星があり、ほぼ同じ平面上で、同じ向きに太陽のまわりを公転しています。この表から、太陽からの距離が9.55の土星が太陽から最も離れていることとなります。太陽から地球までの距離1に対して9.55倍の距離となりますが、ここでは太陽と地球との距離は150mとされているため、太陽と土星の距離は、 $150\text{m} \times 9.55 = 1432.5\text{m}$ となります。土星が地球から最も離れるのは、下の図のように、地球、太陽、土星がこの順で一直線上に位置するときで、 $150\text{m} + 1432.5\text{m} = \underline{1582.5\text{m}}$ となります。このとき、太陽と地球との距離を150mとしているため、地球と土星はその約1.0倍の距離で離れていることとなります。



(4)

太	陽	系	で	生	命	が	存	在	す	る	の	は	地	球	だ	け	だ	と	言
わ	れ	て	い	る	。	生	命	が	存	在	す	る	た	め	に	は	、	液	体
の	水	、	空	気	、	適	度	な	温	度	、	そ	し	て	太	陽	か	ら	の
エ	ネ	ル	ギ	ー	な	ど	が	必	要	だ	と	考	え	る	。	太	陽	と	地
球	の	距	離	も	重	要	で	、	生	命	に	と	つ	つ	て	不	可	欠	な
体	の	水	を	存	在	さ	せ	る	温	度	環	境	を	提	供	す	る	。	ま
た	、	主	に	酸	素	や	窒	素	で	成	り	立	つ	大	気	は	、	太	陽
か	ら	の	熱	を	保	存	し	、	生	物	に	有	害	な	紫	外	線	を	さ
え	ぎ	る	。	こ	う	し	た	さ	ま	ざ	ま	な	要	因	の	お	か	げ	で
太	陽	系	の	地	球	に	の	み	生	命	が	存	在	す	る	。			
																			197
																			字

平成25年度入学者選抜制度中高連絡協議会委員名簿

	氏名	所 属
1	会長 武井 多加志	公立高校教頭会 日川高等学校
2	副会長 森澤 和仁	公立小中学校教頭会 押原中学校
3	委員 谷澤 浩明	公立小中学校教頭会 後屋敷小学校
4	委員 長澤 宏隆	中学校進路指導連絡協議会 北中学校
5	委員 小野 一人	中学校進路指導連絡協議会 上条中学校
6	委員 芦澤 明仁	中学校進路指導連絡協議会 玉穂中学校
7	委員 渡邊 保志	中学校進路指導連絡協議会 大月東中学校
8	委員 梁澤 眞悟	公立高校教頭会 農林高等学校
9	委員 早川 保彰	公立高校教務主任会 甲府南高等学校
10	委員 飯嶋 清二	公立高校教務主任会 甲府工業高等学校
11	委員 清水 佳大	公立高校教務主任会 上野原高等学校
12	委員 荻野 逸郎	公立高校教務主任会 ひばりが丘高等学校
13	委員 渡邊 仁	教育委員会事務局付主幹
14	委員 数野 保秋	義務教育課義務教育指導監
15	委員 廣瀬 学	義務教育課中学校担当
16	委員 重田 誠	義務教育課中学校担当
17	委員 保坂 伸	義務教育課中学校担当
18	委員 田口 尚弥	高校教育課高校教育指導監
19	委員 永田 典弘	高校教育課課長補佐
20	委員 古郡 文春	高校教育課入試担当
21	委員 赤池 宏己	高校教育課入試担当
22	委員 荒川 昌浩	新しい学校づくり推進室特別支援担当
23	委員 塩沢 和明	総合教育センター情報担当
24	委員 奥田 正治	新しい学校づくり推進室室長補佐(事務局)
25	委員 小佐野 寛	新しい学校づくり推進室高校改革担当(事務局)
26	委員 早川 一也	新しい学校づくり推進室高校改革担当(事務局)

山梨県高等学校入学者選抜方法庁内検討委員会設置要綱

(目的)

第1 中学校における偏差値に偏らない適正な進路指導に添えるため、生徒の個性や適性に着目して積極的に評価する等の観点から、高等学校の入学者選抜方法の改善に資することを目的とし山梨県高等学校入学者選抜方法庁内検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(組織)

- 第2 委員会は、会長、副会長及び委員をもって構成する。
- 2 会長は教育次長を、副会長は高校教育課長をもって充て、委員は、教育委員会事務局職員、県立高等学校長及び公立中学校長のうちから教育長が任命又は委嘱する。
- 3 委員会に幹事会を置く。
- 4 幹事会は、教育委員会事務局職員のうちから教育長が命ずる者をもって構成する。
- 5 幹事会に幹事会長を置き、新しい学校づくり推進室長をもって充てる。

(所掌事務)

第3 委員会は、本県の高高等学校入学者選抜方法において改善を要する事項及びその具体的改善方策について検討する。

(会議)

- 第4 会議は、委員会及び幹事会とする。
- 2 委員会は、会長が招集し議長となる。
- 3 幹事会は、幹事会長が招集し議長となる。

(報告)

第5 委員会は、調査、検討の成果を随時、教育長に報告する。

(庶務)

第6 委員会の庶務は、新しい学校づくり推進室が担当する。

(その他)

第7 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、会長が定める。

附 則

この要綱は、平成 9年4月1日から適用する。

附 則

この要綱は、平成12年4月1日から適用する。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から適用する。

附 則

この要綱は、平成22年4月1日から適用する。

平成25年度山梨県高等学校入学者選抜方法庁内検討委員会委員名簿

○教育委員会(5)

1	教育委員会	教育次長	堀内 浩将	会長
2	教育委員会事務局	次長	秋山 孝	
3	義務教育課	課長	渡井 渡	
4	高校教育課	課長	赤池 亨	副会長
5	新しい学校づくり推進室	室長	大塚 克秀	

○高等学校(9)

1	北杜高等学校	校長	堀川 喜美雄	峡北
2	韭崎高等学校	校長	赤岡 正毅	峡北
3	甲府第一高等学校	校長	奥田 正直	甲府
4	甲府西高等学校	校長	深澤 幸一	甲府
5	増穂商業高等学校	校長	佐久間 豊人	峡西南
6	身延高等学校	校長	佐野 純一	峡西南
7	笛吹高等学校	校長	加賀美 史朗	峡東
8	谷村工業高等学校	校長	手塚 芳一	東部
9	吉田高等学校	校長	吉岡 剛	富士北麓

○中学校(9)

1	上野原中学校	校長	小俣 孝雄	県中学校部長
2	北中学校	校長	赤松 大	甲府
3	榑形中学校	校長	米長 敬生	中巨摩
4	須玉中学校	校長	山中 長壽	北巨摩
5	塩山北中学校	校長	川崎 敏朗	東山梨
6	御坂中学校	校長	富士池 武仁	笛吹
7	南部中学校	校長	望月 正宏	峡南
8	秋山中学校	校長	田辺 洋利	北都留
9	都留第一中学校	校長	上野 清	南都留

〔協議経過〕

平成23年 8月 2日 山梨県高等学校審議会に諮問

・公立高等学校入学者選抜制度の検証について

平成24年12月26日 山梨県高等学校審議会より答申書提出

- ・中高連絡協議会の設置
- ・調査書の内容とその取扱い
- ・中学校長による証明書
- ・「特色適性検査」
- ・入試日程の改善
- ・選抜方法（募集率）の高校の自由度を増すこと

平成25年 4月25日 第1回入学者選抜制度中高連絡協議会

（調査書の内容とその取り扱い及び中学校長による証明書について）

平成25年 5月24日 第2回入学者選抜制度中高連絡協議会

（調査書の内容とその取り扱い、中学校長による証明書及び特色適性検査について）

平成25年 6月 3日 第1回入学者選抜方法庁内検討委員会

（調査書の内容とその取り扱い及び中学校長による証明書について）

平成25年 6月27日 第3回入学者選抜制度中高連絡協議会

（中学校長による証明書及び特色適性検査について）

平成25年 7月11日 第2回入学者選抜方法庁内検討委員会

（中学校長による証明書及び特色適性検査について）

平成25年 9月19日 第4回入学者選抜制度中高連絡協議会

（入試日程の改善及び選抜方法（募集率等）の高校裁量の自由度を増すことについて）

平成25年10月 8日 第3回入学者選抜方法庁内検討委員会

（中学校長による証明書、入試日程の改善及び選抜方法（募集率等）の高校裁量の自由度を増すことについて）

平成25年11月28日 第5回入学者選抜制度中高連絡協議会

（「学習活動及び生活状況に関する所見」及び選抜方法（募集率等）の高校裁量の自由度を増すことについて）

平成25年12月18日 第4回入学者選抜方法庁内検討委員会

（「学習活動及び生活状況に関する所見」及び選抜方法（募集率等）の高校裁量の自由度を増すことについて）

山梨県公立高等学校入学者選抜制度改善のまとめ

～入学者選抜制度改善の概要～

改善の必要性

- 現行制度の課題
 - ・ 前期募集選抜基準に不透明感
 - ・ 一部の生徒や保護者にある、部活動や校外活動の実績のみで前期募集により進学できるという意識
 - ・ 前期内定者への学力不足の懸念
 - ・ 前期内定後の中学校での指導上の困難さ
 - ・ 中学校での学習活動を保証する入試日程

改善の方向性

- 検査内容の改善
 - ・ 学力の評価は必要だが、学力検査は導入しない
 - ・ 高校が求める適性を問う検査の導入や募集率等での高校裁量を増すことで、特色ある高校づくりを推進
 - ・ 面接で学力を問うことは実施しない
 - 中高の接続による生徒理解の充実
 - ・ 自己推薦を堅持しながら、従前の校長推薦のような形式の導入を検討
 - ・ 調査書の内容や取り扱い等の検討
 - 入試日程の改善
 - ・ 中学校での基礎基本を身に付ける学習活動の保証
 - ・ 「学びのセーフティネット」を維持

改善の概要

現行の前期募集

募集人員

普通科	定員の 10～30%の範囲
専門教育学科	定員の 20～40%の範囲
専門学科	定員の 30～50%の範囲
総合学科	定員の 20～40%の範囲

検査方法

- ・ 面接は全ての学科、コースで実施
- ・ 各高校で、作文、特技、個性表現を実施

提出書類

願書・志願理由書・確約書・調査書など

平成 27 年度入試から

普通科	定員の 40%以内
専門教育学科	定員の 40%以内
専門学科	定員の 50%以内
総合学科	定員の 50%以内

- ・ 面接は全ての学科、コースで実施するが、教科に関する質問はしない
- ・ 作文に替わる「特色適性検査」を含めて、各高校の裁量で実施する

「学習活動及び生活状況に関する所見」を加える

入試日程の改善

- ・ 全日制の前期募集は、2月中旬に検査、内定を実施する
- ・ 再募集は全日制と定時制で別日程とする